



TITLE:

静脩 Vol. 25 No. 1 (1988.7) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 25 No. 1 (1988.7) [全文]. 静脩 1988, 25(1)

ISSUE DATE:

1988-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65991>

RIGHT:



静脩

1988年7月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 25, No. 1

学術情報システム整備のこれまでとこれから

井 上 如

1) 学術情報センターは、周知のように、わが国における学術情報システムの整備を推進するためのシカケとして3年前に設立された。答申（昭和55年の学術審議会の答申『今後における学術情報システムの在り方について』のこと。以下単に答申と呼ぶ）に言う学術情報システムを構成する他の機関——大学図書館、大型計算機センター、国立の大学共同利用機関等——とはそこが違う。だからといって、学術情報センターの側から見れば（他の機関と違って）学術情報システムの全体像が見えるというわけではない。事実はむしろ逆であろう。それをもし見えているように思い込む、あるいは見えている範囲が学術情報システムの実現状況であるなどと思い込むことがあれば、それはこの崇高な目的に酔った結果の自己肥大に伴う幻想である筈で、従って仮りそれにもそうした天動説めいた思い込みに陥ることがあってはならない。学術情報は、まとめられた知識とは異なり、研究者一人一人の頭の中に、断片的に、従って分散して存在する。この事からひとまず離れて、学術情報システムを考えると、余程用心しなくてはならない。

2) 編集者の依頼に甘えて大仰な題を付けてしまったけれど、以下に述べるのは、今までの学術情報センターの事業が、答申の内容の実現、つまり学術情報システムの構築に対して、どうかかわってきたか、次の課題は何かということについての一つのスケッチである。それも、筆者に見える対象範囲からの素描に過ぎないことを繰り返しお断りしたい。併せてこの機会に、研究者を始め、大学図書館、出版者、学会、情報処理センターなど各々の立場から、学術情報システムがどう見えているか（学術情報システム論ではなく）について、種々の観察結果が提出され、お互いに各々のパースペクティブを交換する機会がもっと増えるようにという希望を述べさせて頂きたい。

3) 答申を読むと、その基本的な考え方というのは、答申本文の後の方、7ページから8ページにかけて出てくる。曰く：“学術研究活動の諸過程で必要とされる各種の情報を的確かつ効率的に利用者に提供するシステム”で、第一に必要な諸機能の有機的な連結、第二に資源共有、第三に研究者にとっての最適システムの三つをその要件として指摘している。提出後8年経た今日、ほとん

ど無傷のまま引用できる答申本文の数少ない箇所として、この基本的考え方の部分があるのは、この答申の値打ち、今でもそこに立ち帰って考える値打ちがあるということを示唆していると思う。おそらく答申の最大眼目は、この“学術研究の諸過程で必要とされる情報”という一点に集約されると見るのが、現時点での答申の正しい読みかたではないか。但し、答申そのものはこの“諸過程”については、指摘するだけで特段の分析をしていない。

分析のためのアプローチは三つあると思う。一つは研究者の日常行動に即して捉えて、研究者が情報を集め使う行動と、情報を生産し流通せしめる行動とに分ける方法、二つ目は研究者がその研究の諸過程でかわる情報を、資料化された範囲に限定し、0次情報から3次情報までの展開として整理する方法、三つ目は、情報処理機器としてのコンピュータと、その処理結果を流通させるための通信ネットワークとをインフラストラクチャとして提供しておいて、その上での諸過程の実現状況を見るという方法である。これらは、波打ち際に寄せる波が幾重にも重なるように重なっており、沖にあるほど深く、大きく、しかし見えにくい。ここでは、第一の方法（この二分法が他の二つの多次的な展開に比べ粗雑であることは認めるが）の立場で整理したい。

4) さて、昭和55年に立ち戻って、答申の中心的主題は、三つの問題点を挙げ、その意義、現状、今後の解決課題を示したことである。すなわち、第一は1次資料の収集・提供の充実、第二は情報検索システムの確立、第三はデータベース形成の促進である。これらの問題は三つ一緒に解決するというようなものではないし、順番に一つ一つ解決していくようなものでもない（この事は、本稿全体の底流にあるが、敢えて一つ一つ取り上げる）。答申を受けて設置された学術情報システム設置調査と、開発調査の委員会では、これらの問題解決の可能性の検討と、シナリオ作りをした。そのシナリオを踏まえて、学術情報センターは（前身の文献情報センター時代も含めて）、結局第

二の情報検索システムの確立から着手した。中でも答申の中で既に優先順位の高かった目録所在情報サービスを、大学図書館向けに提供することから始めた。現在、62の大学がこれを利用して下さっている。昭和62年4月からは二次情報検索サービスの提供を開始した。63年3月末で885名の方がこれを利用して下さっている。ゆくゆくはこれら二つのサービスを統合して、主題検索から原文献の所在同定と入手まで一貫したシステムにすることを目指しているが、これもおおむね答申にそう書かれていることを忠実に実現しようとしているのだといってよい。

5) 学術情報センターの側からは、目録所在情報サービスの利用館が増え、所在情報の蓄積が増え、総合目録が充実するというところまでは見える。国際的にみても、これが書誌ユティリティというものの一つの行き着く先らしい。しかし、だから大学図書館間における重複購入が減る（答申にはこれも学術情報システムの最終目標の一つとしている）とか、複写や貸出などの相互利用が増えとかの事は不明である（ILLシステムはまだ実現していない）。総合目録の充実と、これらの事との間に直接の連続性は見いだせない。つまり、答申の第一の問題点の解決と、第二の問題点である目録所在情報サービスの解決との間には距離があるらしい。当初のシナリオのこの部分は、やや観念的——理想主義的に過ぎたのだろうか。おそらく、1次資料の収集における文部省の学術情報課を中心とする図書館蔵書の立体化（外国雑誌センター、文献資料センター、データ資料センターの整備）の努力に依存し過ぎて、問題の所在を収集にのみ限定した、利用開発が立ち遅れたというのが実状であろう。ここに学術情報システムの直面する一つのフロンティア、つまり第一の課題がある。

6) さて、学術情報センターでは、1年間の調査研究段階を経て、今までとは全く異なる方向に向かって、昭和63年度から一つの事業を展開し始めた。それがデータベース形成事業である。デー

データベースの形成なら、目録所在情報サービスの上に構築する総合目録だってそうじゃないか、あるいは、それ以前から形成と利用の長い歴史を持つ学術雑誌総合目録だってあるじゃないかという反論が、特に大学図書館の側から出てきそうである。しかし学総目や目録所在情報事業の特徴は、大学図書館を中心として、学術情報センターというシカケを利用しながら形成してきたものだという事である。これらのデータベースは、大学図書館と学術情報センターの合作であって、研究者はそこに関与していない。ところが、学術情報センターの次の事業としてのデータベース作りは、例の“学術研究の諸過程で必要とされる情報”に即した、研究者との共同によるデータベース作りである。今までは研究者の情報活動の諸過程の中の、収集という点で主として仕事をしてきた。研究者が大学図書館を利用し、そこで資料収集を行うその過程に、目録所在情報を提供するという事を介して、参加してきた。今後は、研究者の情報収集ではない別の面、研究成果としての論文の執筆と発表という面で何か役に立てないかという試みである。今までとは全く異なる方向と申した所以である。

7) ところが、ここに一つ問題がある。というのは、研究者の情報収集行動というのは個人的な行動である。図書館を利用するも、あるいは図書館の代行検索を利用するも同じ事で、これらは原則として全て個人的な行動である。大学図書館が、この基本的に個人の動機に基づく行動を伝統的に旨く束ねてきた。ところが、学会発表論文の作成とデータベース作りとを旨く連動させるなどという仕事になると、これまた基本的に個人の動機に

基づく行動でありながら、それだけでは片付かない面がある。個人の情報消費行動を図書館が旨く束ねてきたように、個人の情報生産行動を旨く束ねるシカケが必要だ。ここに学会あるいは学会連合という組織が登場して来る根拠がある。これは実は、答申の段階では全くといっていいほど見えていなかったことである。ここにもう一つのフロンティア、つまり第二の課題がある。

8) 最後にまとめて述べる。

学術情報センターは、今まで大学図書館と組んで目録所在情報の蓄積と流通の促進に携わってきた。これは答申が解決を求めた三つの問題の内の第二のものであり、シナリオも出来ていた。学術情報センターは、次の仕事として、学会と組んでデータベース作りを始めた。これは答申が解決を求めた第三の問題であるが、シナリオはない。第一の問題には今のところ手が届いていない。

そこで、次の課題は二つある。一つは、大学図書館を中心にして答申に言う第一の問題の内の利用開発に取り組むためのシナリオを書くことである。これは大学図書館が中心になってやる仕事と思われる。二つ目は、データベース作り（答申第三の問題）を、研究者の研究成果物の生産・発表過程と並行させながら進めていくためのシナリオ作りである。これは、学会と、学術出版と、学術情報センターとが協力しながら行う仕事であろう。

答申の基本は、“学術研究活動の諸過程で必要となる各種の情報への対応”であった。研究者が情報を使う行動に大学図書館を介してまず対応し、ついで情報を作る行動に学会を介して対応しようとしているのが学術情報センターの現状である。

(学術情報センター教授)

大型コレクション 10年の蓄積

昭和53年度から文部省によって予算化された大型コレクション（外国図書及び国内図書）は、62年度で10年を経過した。この間、本学は毎年度購入が認められ、多数の資料が蓄積されてきた。

大型コレクションは学内外の研究者の共同利用に供することが条件の一つにされており、本学においても「静脩」での紹介、冊子目録の作成等に

努めてきた。

ここに10年間のリストをまとめて掲載することにより、従来にも増して利用されることを願っている。

（注） リスト中、国際法政文献資料センターは法学部の、東洋学文献センターは人文科学研究所の附属施設である。

昭和53年度

資 料 名 (出版形態・出版国名)	備 付 場 所	静脩での内容紹介
Archivio Storico Italiano. Ser. 1, V.1-16; 1842-1851. N.S., V.1-1494; 1855-1977. (イタリア史誌・オリジナル・イタリア)	附属図書館	16巻1号('79.5)
La collection des Procès-verbaux de l'Assemblée nationale, 1789-1813. 332 vols. (フランス国民議会議事録・オリジナル・フランス)	国際法政文献資料センター	同 上
British Parliamentary Papers, 1801-1899. Blue Books in 1000 vols. (ブルーブックス・英国議会議文書・リプリント・英国)	同 上	同 上
The National Central Library's Collection of Rare Chinese Classics. 1076 reels. No.1 (大部分) (台湾国立中央図書館善本コレクション・マイクロフィルム・台湾)	東洋学文献センター	同 上
Stenographische Berichte über die Verhandlungen des Deutschen Reichstages. Bd. 1(1867)-456(1933). 387 vols. (ドイツ帝国議会議事録・オリジナル・ドイツ)	国際法政文献資料センター	同 上
Государственная Дума 1906-1917. Vol.1-4. 4552 fiches. (ロシア帝国議会議事録・マイクロフィッシュ・ドイツ)	同 上	同 上

昭和54年度

Le Moniteur universel: journal officiel de l'empire français, 1814-1863 with Index. 134 vols. (フランス官報索引付・オリジナル・フランス)	附属図書館	17巻1号('80.4)
The National Central Library's Collection of Rare Chinese Classics. 1493 reels. No.1 (残部)~8 (台湾国立中央図書館善本コレクション・マイクロフィルム・台湾)	東洋学文献センター	同 上

昭和55年度

The Persian Library of an Iranian Scholar. 1575 vols. (ペルシャ語イラン文献資料集成・オリジナル・イラン)	附属図書館	18巻1号('81.5) 冊子目録も刊行
---	-------	-------------------------

昭和56年度

Die Weimarer Republik im Spiegel der Literatur. 1566 vols. (ワイマール共和国時代の文献コレクション・オリジナル・ドイツ)	附属図書館	19巻1号('82.4) 冊子目録も刊行
---	-------	-------------------------

昭和 57 年度

Goldsmith'-Kress Library of Economic Literature, Segment 1 & Supplement. 2028 reels. (ゴールドスミス・クレス文庫所蔵経済学文献集成・マイクロフィルム・アメリカ)	附属図書館	20巻1号 ('83.10)
The Nyingma edition of the sDe-dge bKa'-'gyur and bsTan-'gyur. 120 vols. (デルゲ版チベット大蔵経・リプリント・アメリカ)	同 上	20巻2号 ('84.1)

昭和 58 年度

The House of Commons Parliamentary Papers. 1801-1900. 46100 fiches. (19世紀英国下院議会文書・マイクロフィッシュ・イギリス)	国際法政文献資料センター	21巻2号 ('85.3)
--	--------------	---------------

昭和 59 年度

Goldsmith'-Kress Library of Economic Literature, Segment 2. 1716 reels. (ゴールドスミス・クレス文庫所蔵経済学文献集成・マイクロフィルム・アメリカ)	附属図書館	20巻1号 ('83.10)
---	-------	----------------

昭和 60 年度

The House of Commons Parliamentary Papers, 1901-1921. 17944 fiches. (20世紀初頭英国下院議会文書・マイクロフィッシュ・イギリス)	国際法政文献資料センター	
--	--------------	--

昭和 61 年度

Goldsmith'-Kress Library of Economic Literature, Segment 3, Pt.1. 353 reels. (ゴールドスミス・クレス文庫所蔵経済学文献集成・マイクロフィルム・アメリカ)	附属図書館	20巻1号 ('83.10)
--	-------	----------------

昭和 62 年度

American Periodicals Series, I-III. 2772 reels & 1 vol. (米国定期刊行物集成・マイクロフィルム・アメリカ)	附属図書館	24巻4号 ('88.3)
Annual Reports of the Major American Companies. (641 Companies; 1st Annual Report to 1985) 711 reels. (米国大企業年次報告書集成・マイクロフィルム・アメリカ)	同 上	(同 上)
The Eighteenth Century, I: Unit 1-56. 1960 reels & 3 vols. (18世紀刊本文献集成・マイクロフィルム・イギリス)	同 上	(同 上)
European Official Statistical Serials, 1841-1984. 7214 fiches. (ヨーロッパ諸国・公式統計資料集成・マイクロフィッシュ・イギリス)	同 上	(同 上)
France, Journal Officiel et Debats Parlementaires, 1869-1985. 3598 reels. (フランス官報及び国会議事録・マイクロフィルム・フランス)	同 上	(同 上)
Government Organization Manuals, 1900-1980. 8708 fiches. (世界各国政治機構要覧シリーズ・マイクロフィッシュ・イギリス)	同 上	(同 上)
The New York Times 1851-1986, & Index 1851-1986. 3189 reels & 128 vols. (ニューヨークタイムズ紙及び同索引, マイクロフィルム及び冊子体・アメリカ)	同 上	(同 上)
Библиография Японии, 1734-1958. 726 reels. (ロシア・ソ連で出版された日本関係文献・マイクロフィルム・ソ連)	同 上	(同 上)

昭和62年度 特別図書の購入

番号	資 料 名	数 巻 ・ 年	備 付 部 局
1	Corpus Vasorum Antiquorum. Deutschland. Kommission für das Corpus Vasorum Antiquorum bei der Bayerischen Akademie der Wissenschaften (hrsg.) (古代壺絵集成・ドイツ所蔵分)	Vol.16, 31-53 1959, 1971-1984	文 学 部
2	Beiträge zur Geschichte der Philosophie und Theologie des Mittelalters. Neue Folge. (中世哲学神学史稿)	Vol.1-5, 7, 9-28 1970-1986	〃
3	東洋文庫所蔵 満洲族関係文献集	16 reels (Microfilm)	〃
4	Abhidhanarajendra Kosh. (Jain Encyclopaedia, A Dictionary of Prakrit-Magadhi-Sanskrit.) (ジャイナ教百科事典)	Vol.1-7 Reprint 1985 (1910-1925)	〃
5	洛中洛外図大観 町田家旧蔵本, 上杉家本, 舟木家旧蔵本	全 3 冊 1987	〃
6	民政 昭和13年—16年	復刻版・第4期 全12巻 1987	教 育 学 部
7	精神分析研究	1-12巻 1954-1966	〃
8	Erläuterungen über den Code Napoléon und die Grossherzoglich Badische Bürgerliche Gesetzgebung. Brauer, Johann Nikolaus Friedrich. (ナポレオン法典及び大公国バーデン市民立法に関する注釈)	6 vols. Reprint 1986 (1809-1812)	法 学 部
9	Protokolle der Kommission zur Ansarbeitung des Entwurfs einer Civilprozessordnung für die Staaten des Norddeutschen Bundes. Schubert, W. (eingeleitet & neu hrsg.) (北ドイツ連邦民事訴訟法大系草案審議委員会議事録)	5 vols. Reprint 1985 (1868-1870)	〃
10	National Reporter System. Atlantic Reporter. 2nd Series, Federal Reporter. 2nd Series, West's California Reporter. etc. (全米判例体系)	88 vols. 1987	〃
11	Railroads and Public Utilities in the Inter-War Period. (両大戦間のアメリカ鉄道業・公益事業調査報告)	20 vols. Reprint 1987	経 済 学 部
12	Journal of Financial and Quantitative Analysis. (財政定量分析雑誌)	Vol.10-18 1975-1983	〃
13	承政院日記 国史編纂委員会編 正祖15年10月—純祖29年10月	90巻-113巻	附 属 図 書 館
14	I.B.Z.-Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. (国際学術雑誌記事索引)	Vol.22 1986	〃

昭和62年度 高額図書の購入

1. 継続図書

- (1) 複数分野
 - Bibliographic Guide to Government Publications.
 - OECD Publications.
 - 国際連合・国際機関及び主要国統計
- (2) 社会科学
 - 有価証券報告書総覧（第1部上場）
- (3) 自然科学
 - Sadtler Spectra : Infrared Grating.
 - Infrared Prism.

2. 単年度購入図書

- (1) 人文科学
 - Behavioural Brain Research. Vol.1-14 (1980-1984)
 - Bibliotheca Shakespeariana, Unit 23 : Adaptations and Acting Versions, 1660-1980. Microfiche
 - Historical Abstracts. Part A & B Vol.27, 32 (1981), 28, 33 (1982), 29, 34 (1983)
 - 體育と競技／大日本體育學會編 大正11年—昭和15年 復刻版 19巻
- (2) 社会科学
 - Keesing's Contemporary Archives. 1931-1980 ; Microfiche, 1981-1986 ; 6 vols.
 - United States Constitutional and Legal History. 19 vols. (1987)
- (3) 自然科学
 - Das Tierreich. Lieferung 72-103 (1958-1986)
 - Encyclopedia of Fluid Mechanics. 6 vols. (1986-1987)
 - High Tech Ceramics : Proceedings of the World Congress on High Tech Ceramics, the 6th International Meeting on Modern Ceramics Technologies. Part A, B, C (1987)
 - NTIS Title Index. Retrospective Index 64/78-85/86 (1964~1986) Microfiche
 - Special Collection Doctoral Dissertations in U.S.A. & Canada : Key Papers on Finite Element Methods. 49 titles Microfiche
 - Systems & Control Encyclopedia. 8 vols. (1987)
 - 海外研究開発レポート Data No. HTR-740 (植物の組織培養シリーズ A-N) 14 vols. (1987)
 - 南部藩家老席日誌（盛岡市中央公民館所蔵）天保元年—11年 158 reels Microfilm

◎ 備付場所はいずれも附属図書館です。

貴重書指定基準の改正及び運用に関して

1. はじめに

附属図書館においては、かねてから貴重書指定基準の見直しが懸案となっていたが、昭和61年6月27日開催の商議会において「貴重書専門委員会」の設置が承認され、その検討に着手することになった。委員長には図書館長があたり、文学部、法学部、経済学部、教養部から、国史、漢籍、洋書等に造詣の深い教官7名に委員を委嘱した。

委員会の検討課題は次のとおりであった。

1. 貴重書等の基準に関すること
2. 貴重書等の判定組織及び方法に関すること
3. 貴重書等の取扱い及び利用方法に関すること
4. その他必要事項

昭和61年7月から63年1月まで計9回にわたって新基準及び基準の適用等について審議された。

なお、委員会の発足に先立って、61年5月には館内職員による「貴重書ワーキング・グループ」が設置され、①貴重書の基準、整理、取扱い等に

関する現状分析、②貴重書に関する今後の方策立案に関する調査・検討を行ない、委員会とワーキング・グループとのフィードバックをはかりつつ審議を進めていった。

以下に、これまでの経緯を簡単に説明する。

2. 京都大学附属図書館貴重書指定基準について

附属図書館の貴重書指定基準としては、明治32年の京都帝国大学附属図書館開設後間もない頃に作成された『貴重書選定標準』が長年の間適用されてきたが、現在ではややそぐわない面も出てきており、時代の状況変化に応じた指定基準の作成が急がれてきた。昭和55年、「附属図書館運営改善に関する委員会・第一小委員会」により、『京都大学貴重図書選定標準（案）』が提案されたが実施されるにはいたらなかった。このたびの「貴重書専門委員会」では、この第一小委員会報告の選定標準案を参考にしつつ、あらたな観点にたって貴重書指定基準の作成に精力的に取り組んだ結果、以下の指定基準を制定するに至った。

京都大学附属図書館貴重書指定基準

（昭和63年3月25日 附属図書館長裁定）

附属図書館における貴重書の指定基準は、下記によるものとする。

1. 和 書

イ. 刊 本

- (1) 寛永以前に印刷されたもの
- (2) 正保以後に印刷されたもののうち、伝本が少なく資料的価値があると認められるもの
- (3) 正保以後に印刷されたもののうち、名家の書入れ等により、特に資料的価値があると認められるもの

ロ. 写 本

- (1) 寛永以前に書写されたもの

- (2) 正保以後に書写されたもののうち、伝写本が少なく資料的価値があると認められるもの
- (3) 名家手写本（書入れ本、自筆稿本、書簡等を含む。）のうち、特に資料的価値があると認められるもの
- (4) 記録もしくは文書類で、特に資料的価値があると認められるもの

2. 漢 籍（準漢籍及びアジア諸言語本を含む。）

イ. 刊 本

- (1) 明代以前に刊刻されたもの
- (2) 清代以後に刊刻されたもののうち、伝本が少なく資料的価値があると認められるもの
- (3) 清代以後に刊刻されたもののうち、名家の書入れ等により、特に資料的価値があると認められるもの
- (4) 李朝古版本、その他特に資料的価値があると認められるもの
- (5) その他のアジア諸言語の古版本及び古活字本、その他特に資料的価値があると認められるもの
- (6) 日本で刊刻された漢籍及び準漢籍は、和書の基準に従うものとする

ロ. 写 本

- (1) 明代以前に書写されたもの
- (2) 清代以後に書写されたもののうち、伝写本が少なく資料的価値があると認められるもの
- (3) その他のアジア諸言語の古写本、その他特に資料的価値があると認められるもの
- (4) 名家手写本（書入れ本、自筆稿本、書簡等を含む。）のうち、特に資料的価値があると認められるもの
- (5) 記録もしくは文書類で、特に資料的価値があると認められるもの
- (6) 日本で書写された漢籍及び準漢籍は、和書の基準に従うものとする

3. 洋 書

- (1) 18世紀以前に印刷されたもの
- (2) 19世紀以後に印刷されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの
- (3) 写本のうち、特に資料的価値があると認められるもの
- (4) 名家手写本（書入れ本、自筆稿本、書簡等を含む。）のうち、特に資料的価値があると認められるもの

4. 第1ないし第3項に該当しない下記のものうち、特に芸術的又は資料的価値があると認められるもので、稀少なもの

- (1) 肉筆書画類
- (2) 各種拓本類
- (3) 古地図、古絵図類
- (4) 版画、摺物絵類
- (5) 版木
- (6) その他

5. 特殊文庫のうち、特に由緒正しく、一括して嚴重に保存し、研究を行う価値があると認められるもの

3. 新基準等の特徴

(1) 基準について

新基準の主たる改正点は、1.和書、2.漢籍、3.洋書、4.芸術的資料、5.特殊文庫類に大別し、和書、漢籍はさらに、イ.刊本、ロ.写本に細分したことである。また、時代基準を下げたこと、図書以外の特殊形態資料を一括したこと、などもあげられる。

(2) 用語集の制定について

新基準で用いられた語句が、解釈の多様化により、誤認される恐れがあるため、専用の用語集を制定した。今後、実際に貴重書の指定または指定解除の審査の過程で、解釈上の問題が生じた時はその都度、解釈の統一をはかり、用語集に追加してゆくこととする。

(3) 貴重書の指定または指定解除の手続きにつ

いて

新基準の施行により、貴重書の指定を受けるもの、逆に、貴重書指定解除の措置を受けるもの、など貴重書の見直し・検討の必要が生じてくるが、これらの件については、館員による日常業務とは別個に、学内外の教官・職員・個人・団体の別を問わず、当該資料の貴重書指定または指定解除の申請が行える制度を設置することにした。

貴重書の指定または指定解除の申請は、学術資料掛備え付けの用紙（下記様式）を用いて行う。申請が受理されると、「貴重書指定等審査委員会（仮称）」が招集され、審査が行われる。（フローチャート図を参照）

「貴重書指定等審査委員会（仮称）」における審査内容については、すべて記録され、学術資料掛で保存する。

貴重書指定申請書

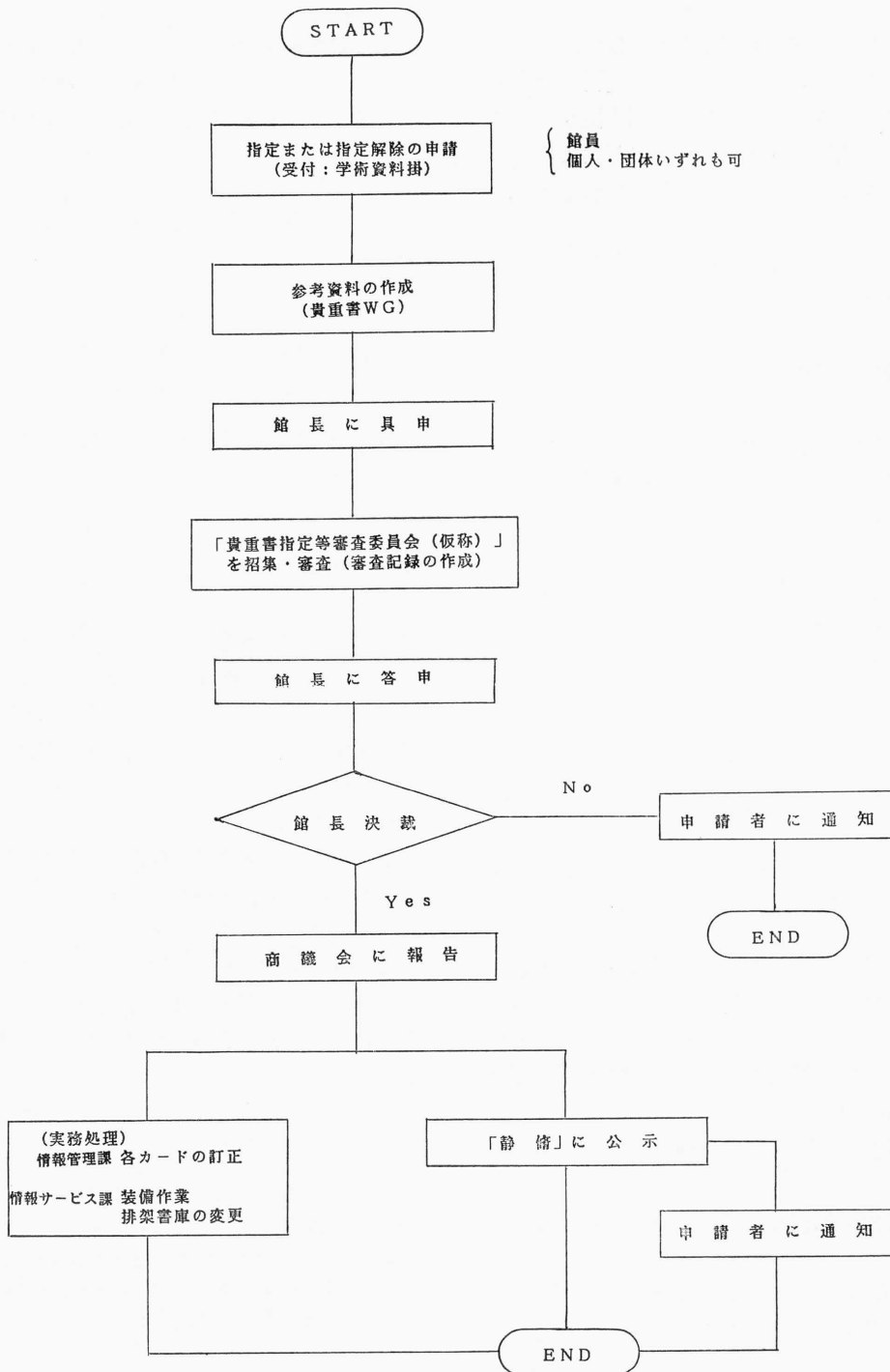
氏 名			
所属・職名			
住 所	〒		
	Tel.		
貴重書指定を申請する図書			
書 名			
請求記号		受入番号	
冊/巻数			
刊 年（書写年、出版年等を含む）（西暦年） 年 （ 年）			
形 態（線装本、卷子本、折本等、詳述すること）			
その他（紙背文書あり、著者自筆稿本等、必要な事項を記入すること）			
申請理由（詳述すること）			

貴重書指定解除申請書

氏 名			
所属・職名			
住 所	〒		
	Tel.		
貴重書指定解除を申請する図書			
書 名			
請求記号		受入番号	
冊/巻数			
刊 年（書写年、出版年等を含む）（西暦年） 年 （ 年）			
形 態（線装本、卷子本、折本等、詳述すること）			
申請理由（詳述すること）			

（注） いずれも B 5 判大

貴重書指定・指定解除の審査手続



AV (Audio Visual) 資料の利用について

附属図書館では新館開館を契機として、従来の図書・雑誌以外の新しいメディアの資料を収集・整備し、時代に即応した活動の一端を担うことになりました。新館ではAVブース室が備えられましたが、諸準備を終え、61年4月から利用を開始しました。

62年度利用状況の概要を紹介し、より一層の利用を呼びかけます。

1. AV資料・設備の概要

資料の収集範囲を語学学習用に絞り、英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語（教養部開講の外国語に限っています）及び日本語（主に留学生のため）の6ヶ国語の語学テープを備えています。その他、手話のビデオテープもあります。

ビデオテープ……………23種、158本

音声カセットテープ…23種、422本

テープの種類と本数（上段：種類，下段：本数）

	英	独	仏	露	中	日	手	計
ビデオ	9	2	4	1	2	4	1	23
	49	25	27	20	20	12	5	158
L L	10	3	7	1	1	1	0	23
	199	58	113	11	11	30	0	422

附属図書館3階に、テープを個人視聴できる機器を備えたブース18席が設けてあります。（10席は音声カセットテープ用、8席はビデオテープ用）これらは、特殊資料室カウンターで申込んだ語学テープのみ使用することができます。

（注）「手」は手話練習用テープ

2. 62年度の利用状況（ ）内は61年度比

利用回数 : 5217回 (+878)
実質利用者数 : 591人 (+28)

1日平均利用回数(平日) : 21.9回 (+3.7)

〃 (土曜日) : 7.6回 (+1.3)

ビデオとLLの利用回数比 : 56 : 44 (7 : 3)

利用状況

	英	独	仏	露	中	日	手	計
ビデオ(回)	1810	300	288	121	77	327	6	2929
(%)	61.8	10.2	9.8	4.1	2.6	11.2	0.2	100
L L(回)	1641	261	199	26	96	65	—	2288
(%)	71.7	11.4	8.7	1.1	4.2	2.8	—	100
計 (回)	3451	561	487	147	173	392	6	5217
(%)	66.1	10.8	9.3	2.8	3.3	7.5	0.1	100

3. 利用方法

語学テープを利用したい方は、図書館3階特殊資料室カウンターへ来てください。ここで受付をします。初めての方は廊下の掲示板に貼ってある案内を見るなどして、どの資料を視聴するか決めてください。（テープのリストをカウンターで配布しています）

申込み票に必要な事項を記入し、学生証・身分証と引換えに、語学テープ、テキスト、ヘッドホン、ブースの鍵を渡します。

AVブース室へ行き、鍵番号の席で視聴してください。1回の利用は2時間以内です。機器の操作は初めての方にも極めて簡単です。気軽に利用してください。

受付・利用の時間

平日 9:00 ~ 16:45

土曜日 9:00 ~ 11:45

※ 12:00~13:00の受付は出来ません。

(午前中に申込んだテープは昼休中も引続き視聴できます。また、返却も可能。)

昭和62年度 附属図書館の利用概要

附属図書館は、新館の開館（59年4月）から去る3月末をもって4年を経過した。この4年間は、新館の多方面に亘る計画と新機軸の基礎作りの時期であった。幸いにも学内外の方々のご理解とご支援を得て着実な歩みをたどって来た。附属図書館がどのように利用されているか、62年度の概要を紹介し、今後のサービスの在り方を検討するためのデータとして活用していきたい。

なお、視聴覚資料については、本号12頁に掲載したので、ご覧願いたい。

1. 入館者：

年間 267 日開館し、608,882人、1日平均2,280人が入館した。特に2月2日には4000人の入館者数を記録した。月別では2月が最も多く66,872人（1日平均3,040人）であった。

時間帯では開館時間9～21時のうち、昼間（9～17時）が全体の83%を、特に12時から15時までの3時間に1日の39%の入館者が集中している。

入館者数の月別変動は、大学の行事等の季節要因による流れがあり、特に2月の試験期は閲覧席が確保出来ない日もあった。

（注）この数字は、利用証によってカウントされた人数で、他に十数%の入館者がある。

2. 図書の貸出

開架図書と書庫内図書との貸出冊数比は83：17となっており、合せて76,991冊が40,866人に対して貸出された。

部局別では文学部が最多冊数（19,260）で貸出密度（貸出冊数÷登録者数）においても10.3冊と他学部よりも群を抜いて多かった。

開架、書庫内図書の貸出、雑誌、参考図書の一時的貸出及び貴重書の閲覧総数は120,412冊であった。

(1) 開架図書

開架図書（約55,000冊）の配架状況は、言語・文学分野が全体の16.3%、次いで法学・政治と歴史・地理が各11%となっている。

貸出冊数は63,703冊で、これを分類別に見ると、数学・物理が25.1%と他分野に比して圧倒的に多く、回転率においても同分野の図書は1冊当たり年間約3回貸出された。

身分別では学部学生が81%を占めている。

(2) 書庫内図書

13,284冊が貸出され、院生が37%と最も多く、次いで学部学生、教官の順で、一人当たり貸出冊数では教官が最も多い。

分類別では、人文・社会科学分野が圧倒的に多く、①言語・文学、②歴史・地理、③宗教・哲学の順に多く、開架図書と大きな差異がある。

3. 参考調査

(1) 文献調査

所蔵調査の受付（文書、電話）

4313件（内訳：文書1,781、電話2,532）

文書による調査依頼の殆どは大学図書館間の相互利用によるものである。電話では学外から4割の調査依頼を受けている。

(2) 情報検索（JOIS, DIALOG）

校費による代行検索は、JOIS 19件、DIALOG 18件、計37件行い、データベースの検索回数は、190回であった。これは60年度の9件45回、61年度の18件51回からみて倍増の傾向にある。この他に学内システム（大型計算機センターシステム）の検索も行なっている。

4. 貴重書の閲覧

貴重書の閲覧で特徴的なことは、学外者の利用が過半数を占めていることである。利用者329人のうち、179人（54.4%）、冊数においても2,427冊のうち、1251冊（51.5%）が学外者によって占められている。附属図書館が重要文化財をはじめ多数の貴重書を有し、学外者にも有効に活用されていることの証左である。

資料の内容では、文庫になっていない単独の貴重書の閲覧が585冊（24%）で最も多く、次いで平松本（朝廷の儀式典礼の記録）が564冊（23%）、

第3位が谷村文庫（国文学，特に連歌，和歌の集書）340冊（14％）となっている。これら3位までで全体の61％を占めている。

5. 図書館間相互協力

(1) 他大学等への紹介状の発行

①国立大学共通閲覧証：185件

②公 私 立 大 学 等：391件

(2) 文献複写

①受 付： 8,103件

②依 頼（国内） 1,226件
（外国） 160件

受付8,103件のうち778件（9.6％）が謝絶で，この大半は所蔵なし及び書誌事項記入の不備であった。機関別では国立大学から6,049件（74.4％），私立・公立大学1,473件（18.2％），個人・企業等465件，国立機関116件となっている。

また，本学からの依頼（国内）1,226件のうち，国立大学へ804件（65.6％），私立・公立大学へは422件行なった。

(3) 図書の現物貸借

所属機関にない資料の利用については，図書館間相互協力活動のうち，図書館資料そのものを貸し借りする，いわゆる現物貸借制度を活用している。本学においてもこの制度の運用により学内外に多くの研究に寄与している。

①他大学への貸出

受付総数	所 蔵		貸 出	
	有	無	可	不可
496件	485	11	355	141
100％	97.8	2.2	71.6	28.4

貸出不可141件の内訳は，所蔵図書室が貸出不可48％，長期貸出中16％等であった。

②他大学等からの借用

受付総数	所 蔵		借 用	
	有	無	可	不可
167件	162	5	128	39
100％	97.0	3.0	76.6	23.4

借用不可39件の内訳は，所蔵なしのほか，所蔵図書室が貸出不可16件（30％），国立国会図書館貸出制限資料12件（30％）等であった。

借用者を身分別に見ると，院生の利用が最も多く99人（59％），次いで助教授14人，学部学生と教授の利用が各11人あった。

6. 学外者の利用

附属図書館では従前から学外者の利用を図書館の創設以来，年に2回程行なっている一般公開の展示会をはじめ，資料の閲覧についても積極的に対応して来た。

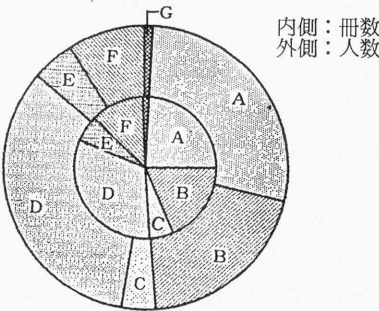
近時，社会の要請と国立大学図書館協議会での「大学図書館の公開」に関する全国的な取り組みに呼応し，附属図書館でも「京都大学附属図書館学外者利用内規」（昭和62年3月24日附属図書館長裁定）を定め，規程化された運用を開始した。

62年度に利用された資料は以下のとおりである。

	一 般 図 書	新 聞	参 考 図 書	貴 重 書	雑 誌	計
冊	3,466	526	159	1,251	2,578	7,980
比率	43.4％	6.6	2.0	15.7	32.3	100％

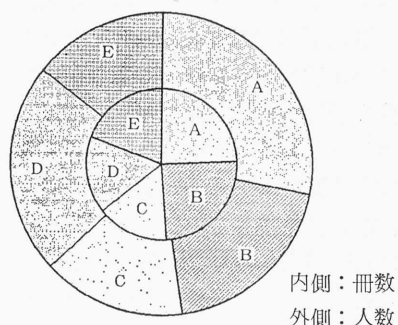
所属機関別内訳

所属機関等	人	％	冊	％
A 卒 業 生	499	28.0	1,940	24.3
B 国立大学	357	20.0	1,483	18.6
C 公立大学	70	3.9	430	5.4
D 私立大学	597	33.5	2,572	32.2
E 一般市民	88	4.9	471	5.9
F 機関・研究所	157	8.8	973	12.2
G 外 国 人	15	0.8	111	1.4
合 計	1,783		7,980	



身分別閲覧内訳

身 分	人	%	冊	%
A 卒 業 生	499	28.0	1,940	24.3
B 教 官	349	19.6	1,952	24.5
C 大学院生	274	15.4	1,227	15.4
D 学部学生	401	22.5	1,306	16.4
E そ の 他	260	14.6	1,555	19.5
合 計	1,783		7,980	



昭和63年度 調査研究員の委嘱

このたび、昭和63年度附属図書館調査研究室の調査研究員に下記三名の教官が委嘱されました。委嘱期間はいずれも昭和63年4月1日から昭和64年3月31日までです。

文 学 部 ：日野龍夫教授
調査研究事項：「大惣本」目録解題作成

大型計算機センター：星野 聡教授
調査研究事項：目録カードによる遡及入力の研究

大型計算機センター：金沢正憲助教授
調査研究事項：遡及入力標準フォーマットの設定

図書館の「課」名変更

附属図書館の「課」の名称が昭和63年4月8日付で変更になりました。これは学術情報システムの進展をはじめとして、時代の変化に即応した名称に変えようとするもので、95の国立大学図書館のうち、部課制を採用している26大学に同時に適用されるものです。

課名の変更は以下のとおりです。

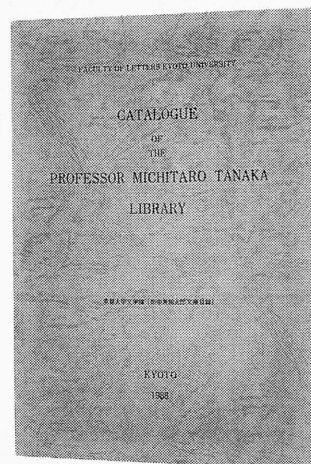
〈前〉	→	〈新〉
○総 務 課	→	(変更なし)
○整 理 課	→	情報管理課
○閲 覧 課	→	情報サービス課
学術情報課	→	情報システム課
医学情報課	→	(変更なし)

(○印は京都大学の場合です)

「田中美知太郎文庫目録」の刊行

本学名誉教授故田中美知太郎博士の所蔵されていた洋書(2104部、2974冊)を、昌子夫人をはじめ御遺族の御好意により、文学部に御寄贈いただいた。文学部整理掛では、これら貴重な図書の整理を終え、このたび「CATALOGUE OF THE PROFESSOR MICHITARO TANAKA LIBRARY」(京都大学文学部「田中美知太郎文庫目録」として冊子体で刊行した。

田中美知太郎先生は、明治35年新潟でお生まれになり、大正15年京都帝国大



学文学部選科修了後、昭和22年から京都帝国大学文学部哲学科哲学史第5講座（現第2講座）を担当され、以後昭和40年京都大学を定年退職される迄、多くの後進の指導と育成に当たられた。本学を退職後も龍谷大学教授等を歴任されたが、昭和60年12月18日に御逝去になった。享年83才

先生は哲学研究の正道として、古代ギリシアにおける哲学の源流にさかのぼり、さらに文学・歴史を含めた西洋古典文献学全般にわたる広い学殖を極められ、これらの分野の本格的研究のために確実な基礎を与えられた。これらの業績に対して、文化勲章をはじめ、数多くの賞を授与されている。

本文庫には、'ギリシア・ローマ時代の哲学・文学・歴史、特に、プラトン、アリストテレスに関する専門の文献をはじめ、中世・近世の哲学書等が幅広く含まれている。現在日本ではほとんど手にすることの出来ない貴重なものも多く、

Diogenes Laertius. Diogenis Laertii De vitis, dogmatibus et apophthegmatibus clarorum philosophorum libri X. 1692.

Aristoteles. Aristotelis Stagiritae Organum. Averrois Cordubensis in hoc ipsum commentaria. 1574.

Plutarchus, of Chaeronea. Πλουτάρχου Χαερωνέως τὰ σωζόμενα πάντα. 1599.

Descartes, René. Renati Des-Cartes Opera philosophica. 1692.

等、1500～1700年代の図書も54冊ある。

これらの図書は、文学部史学科書庫に備付けているが、“幅広い関係者に大いに使って欲しい”という先生並びに御遺族のご希望もあり、多くの方々の積極的な利用をお願いしたい。

（文学部）

「新入生のための Library Guide」発行

京都大学には附属図書館、教養部図書館のほか各学部・研究所等にも55の図書館（室）があり現在、蔵書数は図書約467万冊、雑誌約5万5千タイトルを所蔵しています。

今年度は新入生が最初にもっともよく利用する教養部図書館と附属図書館を紹介するために小冊子“ライブラリーガイド”を発行し、各学部事務室（教務掛）を通じて新入生全員に配布しました。

このライブラリーガイドでは、図書のさがし方、目録カードの見方、貸出返却、相互利用、レファレンスサービス等、図書館の利用全体にわたって、ユニークなイラスト入りで説明しています。

この利用案内を参考にして、分からないことなどは遠慮なく職員に質問・相談して、図書館を積極的に利用されるよう期待しています。

なお、附属図書館と教養部図書館の利用には、「図書館利用証」が必要ですので、附属図書館のインフォメーションカウンターで手続を済ませて下さい。

